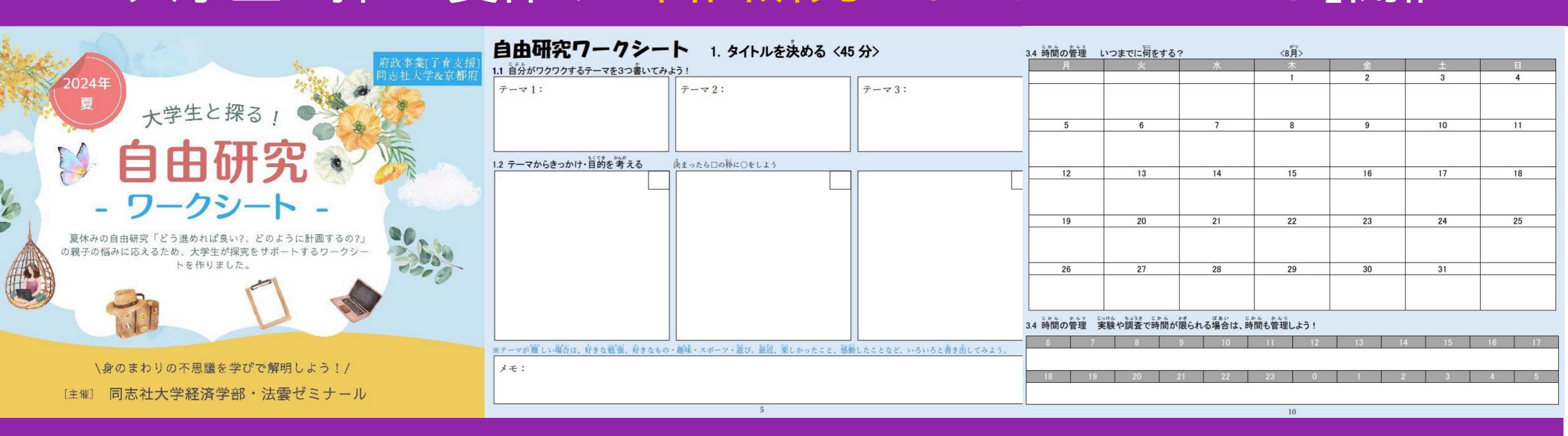
京都府 & 同志社大学(経済学部・法雲ゼミ)

令和 6 年度大学・学生とともにのばす京都プロジェクト共同事業



「大学生と探る!夏休みの自由研究サポートプロジェクト」開催



オリジナルで自由研究サポートのワークシートを作成

■基本情報:

- ①同志社大学(経済学部)②法雲俊栄 ③大学生と探る!夏休みの自由研究サポートプロジェクト
- ④活動地域:同志社大学 今出川校地 2024年8月1日休良心館RY301室、2日金至誠館 S4室 参加者子ども 11名(対象:小学生)、事業学生スタッフ(法雲ゼミ 3年生他)24名。

■成果報告:

- ⑤府政課題「子育て」を支援
- ⑥子育て世代の親子と交流し、SDGs 子ども達に教育支援を提供し社会・地域貢献した 課題:
 - 1. 広報の難: SNS 告知による情報発信が子育て世代に上手く伝わらない・届かない。
 - 2. 共働き世代への支援:共働き、育児の環境下により、家庭学習が困難な子どもが多い。
 - 3. 豊富なコンテンツが必要:幅広い科目ジャンルのコンテンツが必要。
 - 4. 地域交流の機会が必要:大学生と地域住民が交流する場が必要。

参加者親子方へのアンケート調査:

楽しく探究していた。夏休み課題を早期に終わらせることができた。子どもが能動的に課題を進めている姿を見て感動した。など。

⑦事業学生スタッフの思い。 子どもたちの好奇心や探究心が凄い。 保護者にも凄く喜んでいただけて良かった。

■本取組の意義:

小学校における自由研究は、1947 年、戦後の教育改革にともない「児童の自発的な活動」を促す取り組みとして、小学 4~6 年生の授業科目で導入されました。その 4 年後、自律的な活動(児童会、学級会、クラブ活動など)が重視され、科目としては無くなりますが(参考:文科省、学制百年史より)、今日でも多くの学校で、夏休みの宿題として残されています。夏休み中の自由研究において、児童の自発的な活動により進めることができれば望ましいですが、実際は、親の協力や負担割合が大きく、今日の共働き環境、児童のスポーツ活動、習い事など、親子ともに多忙な生活下で、子どもの興味を探り出し、探究時間を確保することは大変難しいといえます。

私どものゼミでは、このような児童のゆとりが無い生活環境下において、現代における自由研究の取り組み意義、ICT を活用した指導の軽減策、進め方の良策は何か?を問として、親子が楽しく取り組むことができる仕組みづくりを模索するため、本プロジェクトを実施いたしました。



